

病虫害発生予察指導情報

(果樹全般・果樹カメムシ類 No.1)

令和7年5月15日
鳥取県病虫害防除所

表1-1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町***			湯梨浜町****		北栄町		
	本年	平年1*	平年2**	本年	前年*****	本年	平年1*	平年2**
4・上	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0
・中	0	0.1	0.0	0	2.0	0	0.0	0.0
・下	0	1.2	0.8	0	17.0	0	2.9	2.4
5・上	0	8.3	3.9	6	261.6	0	57.4	4.6
・中		27.3	7.0		506.4		80.3	64.5
・下		127.9	9.2		43.0		123.8	42.1

*平年1：北栄町：H27～R6 八頭町 R3～R6

** 平年2：北栄町：H27～R5 八頭町：R3～R5

***八頭町はR3年度から調査地点を変更。

****湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

*****調査地点変更後3年未満のため、前年値を記載。

表1-2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町***			湯梨浜町****		北栄町		
	本年	平年1*	平年2**	本年	前年*****	本年	平年1*	平年2**
4・上	0	0.0	0.0	0	—	0	0.0	0.0
・中	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0
・下	0	0.0	0.0	0	1.0	0	0.0	0.0
5・上	0	0.1	0.0	0	2.0	0	0.3	0.2
・中		0.7	0.0		7.0		1.5	1.5
・下		3.0	1.0		0.0		1.3	0.9

*平年1：北栄町：H27～R6 八頭町 R3～R6

** 平年2：北栄町：H27～R5 八頭町：R3～R5

***八頭町はR3年度から調査地点を変更。

****湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

*****調査地点変更後3年未満のため、前年値を記載。

表1-3 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町**			湯梨浜町***		北栄町		
	本年	平年1*	平年2**	本年	前年*****	本年	平年1*	平年2**
4・上	0	0.2	0.3	0	0.0	0	0.0	0.0
・中	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0
・下	0	0.2	0.2	0	0.0	0	0.7	0.1
5・上	0	0.4	0.3	0	9.0	0	6.6	1.6
・中		2.3	0.3		62.0		23.7	16.5
・下		15.4	0.4		41.0		49.9	35.9

*平年1：北栄町：H27～R6 八頭町 R3～R6

** 平年2：北栄町：H27～R5 八頭町：R3～R5

***八頭町はR3年度から調査地点を変更。

****湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

*****調査地点変更後3年未満のため、前年値を記載。

表2 集合フェロモントラップ*におけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	河原町****		北栄町			米子市*****		南部町*****	
	本年	前年*****	本年	平年1**	平年2***	本年	前年*****	本年	前年*****
4・上	0	0.0	0	0.0	0.0	0	—	0	—
・中	5	0.0	9	1.9	1.3	0	—	0	—
・下	1	9.0	17	11.8	12.0	1	—	3	—
5・上	20	8.0	44	41.3	33.9	0	—	0	—
・中		142.0		33.3	30.8		—		—
・下		381.0		34.4	17.8		—		—

* 河原町（水盤式）は果樹園横、北栄町（水盤式）は果樹園横、米子市（乾式）は別所に設置。南部町（乾式）は金田に設置（西部普及所調査）。

** 平年1：北栄町：H27～R6

*** 平年2：北栄町：H27～R5

**** R5年度から郡家町花原の調査地点を河原町小倉に変更。

***** R7年度から米子市別所地区内で調査地点を変更。

R7年度から南部町会見地区の調査地点を南部町金田地区に変更。

***** 調査地点変更後3年未満のため、前年値を記載。

< 1 情報の内容 5月上旬現在 >

- （1）チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数は、八頭町、北栄町で平年に比べて少ない。また、集合フェロモントラップにおける誘殺数は、河原町で前年より多く、北栄町で平年並。
- （2）クサギカメムシの予察灯における誘殺数は、八頭町、北栄町で少ない。
- （3）ツヤアオカメムシの予察灯における誘殺数は、八頭町、北栄町で少ない。

<参考>

・発生量の記載

発生量の多少は中央値（median）の考え方を基に決定しており、発生の実態に即している。

そのため、本年値と平年値の関係が発生量の記載と一致しない場合がある。